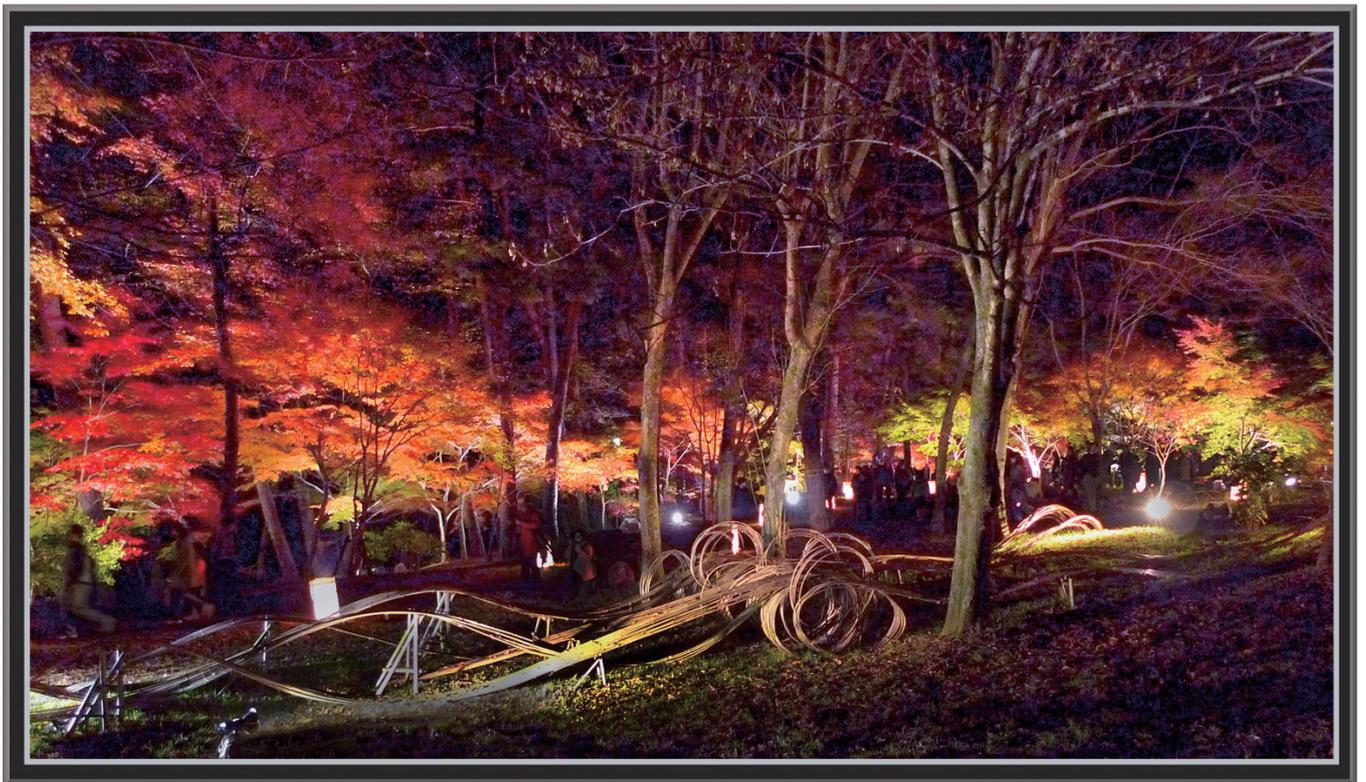




# 埼玉医科大学医学部 同窓会会報

第62号

平成26年12月



# 巻頭言

副会長 稲葉宗通



積雪をあちこちで聞くようになりましたが、毛呂山は、大学の裏に連なる山々はペルシャ絨毯のように秋色に染まり、伊波比神社の参道は銀杏の落ち葉で埋まり黄色い絨毯を敷きつめたように鮮やかに社に続いています。大学では、新外来棟（東館）建設のために福祉棟（古くは小島マンション）が解体され、県道からは基礎棟（旧専門課程）と本館の病院が目映い白で朝日に輝いています。

今年も残すところわずかとなって参りましたが、会員のみなさまにおかれましては如何がお過ごしでしょうか。今年と同窓会活動も順調に進行し、これも一重に会員のみなさまのご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。

今年を振り返ってみますと、大きな自然災害が相次いでおきた年でもありました。記憶に新しいところでは広島市の土砂災害、御岳山の噴火、同窓生から診療所の屋根が飛ばされたとの被害報告があった相次ぐ巨大台風、そして白馬村の地震等々枚挙に暇がありません。被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。

そして大学、同窓会においても、本号の目次で示されるように大きな出来事が幾つもありました。その第一は、埼玉医科大学理事長が交代したことであります。新理事長には卒業生でもある丸木清之先生が、前理事長の丸木清浩先生が名誉理事長に就任されました。清之先生は、これまで永年にわたり学校法人を牽引し理想の医療を追い求めてこられた清浩先生のもとで長年研鑽を積まれてこられました。その努力があって、今年の5月に清浩先生から“もう独り立ちできる。”とお墨付きをいただいたものであります。新理事長の清之先生には、これまで学ばれた知識や経験と持ち前のリーダーシップを遺憾なく発揮していただき、これまで培われてきた“患者中心の医療”をより発展させ、理想の医療の現実化に向けて更なるご活躍を期待いたします。そのために、同窓会は一丸となって惜しみない協力とエールを送り続ける所存です。また、名誉理事長になられた清浩先生には、われわれ同窓会にたいしましてこれまで通りあるいは一段高いところから更なるご指導をお願い申し上げます。

第二に、大学を中心にした公立あるいはそれに準ずる病院の長に、4人の同窓生が就任したことであります。小川赤十字病院長に森本義博先生（1期生）、研

修協力病院の関越病院長に田中政彦先生（3期生）、埼玉県立精神保健センターのセンター長に関口隆一先生（5期生）そして埼玉県立精神医療センター病院長に長尾眞理子先生（8期生）が就任されすでに活躍されております。このことは一層大学あるいは大学病院群との距離が近くなり、患者さんや医師の交流はもちろんのこと学生教育のみならず研修指導や専門教育の場としても大いに期待される所存です。また、8月には埼玉医科大学病院院長も片山茂裕先生から呼吸器内科の金澤實先生にバトンタッチいたしました。大学病院は先進性を含めた特定機能病院としての役割と地域密着型の総合病院としての役割がさらに求められるようになっており、金澤先生への期待の大きさが感じられます。そして、大学病院と地域の病院がより密接に連携することで患者さんや家族にとって最良の医療が受けられるようになることが期待されます。そのためにも、同窓会是最良の協力をしていく所存です。

第3に学内に教授が1人誕生したことであります。14期生の古屋大典先生が国際医療センター救急医学科教授に就任いたしました。古谷先生には、救急医として指導者としての活躍が期待されていますが、体に十分気を付け、多くの救急医の育成にも尽力くださるものと期待しております。

今年も多く5年生が海外で実習を行い、同様に海外からの学生を受け入れ、各自その思いを文章にしてもらいました。皆さん貴重な経験を積んできたことがよくわかります。現在、医学教育の国際基準が叫ばれる中、世界の医学生が埼玉医科大学において高水準の実習や教育を受けられ、埼玉医大生が世界で活躍できるように成るためにも、今回参加した学生さんが大学に残り、今回の経験を生かして国際化の中心になることを期待しています。

同窓生の活躍は、大学のみならず全国各地各方面でその話題を聞くようになってきました。同窓会では、みなさまの活躍の様子を会員のみなさまに広くご報告したいと考えておりますが、残念ながらできていないのが現状です。今後、各支部との情報交換の強化や支部の拡大といったことを軸として、多くの情報を得てそれを発信したいと考えております。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

# お知らせ

## 落合記念賞研究助成金の公募について

第26回落合記念賞研究助成金を公募します。

第26回落合記念賞研究助成金（若手研究者による、医学上将来性に富む研究に対して1件100万円を上限として毎年3～4件を対象に助成）を、下記の通り公募致しますのでご希望の方は所定の申請書をご提出下さい。

### 第26回落合記念賞研究助成金応募要項

#### 1) 申請資格者

埼玉医科大学医学部同窓会会員（但し、教授・准教授・医学部学生は対象から除外する。）で、平成27年4月1日現在40歳未満の者とする。

#### 2) 研究者

個人または複数であっても構わない。協同研究者が申請者の所属と異なっても構わない。

#### 3) 研究期間

原則として2年以内に研究成果が得られる研究であること。

#### 4) 申請に必要な書類（4～5枚1組）

\*申請書—所定の書式用紙（3枚，7）に該当する者は4枚1組]に記入のこと。

\*推薦書—所属学科長ないしは科長，またはそれらに代わる者を推薦者として，所定の書式用紙に記入のこと。

#### 5) 申請期間

平成27年1月15日～3月31日迄の間に，上記の申請書類一式を埼玉医科大学医学部同窓会事務局に提出のこと。

#### 6) 助成金について

助成金は最高100万円までとする。

授与式は6月の同窓会総会で行う。

助成金の交付方法その他については，受賞者に総会終了後説明する。

なお，研究継続が不可能となった場合には，直ちに同窓会会長に報告するとともに，未使用額分の助成金は同窓会に返納しなければならない。

#### 7) その他

申請の研究と同一とみなされる研究で，既に他の助成金の交付を受けている場合，あるいは申請中の場合には，申請書（4）にその内容を明記し提出のこと。なお同一の研究題目で既に他の助成を受けている場合は，応募をご遠慮下さい。

## 海外留学奨励助成金の公募について

医学部同窓会では、正会員の海外留学を支援するために、助成金の公募を行っています。募集要項及び助成金申請書をご希望の方は、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

### \* 申請資格

埼玉医科大学医学部同窓会正会員で、1年以上継続して医学研究のため海外留学を予定し、応募前年度までの年会費を完納している者。

### \* 募集期間（毎年）

前期 2月1日～7月31日

後期 8月1日～1月31日